

## 児童の実態に応じた各学級での取組

- 1組：「スカイプを使った遠隔授業の実践」
- 2組：「自立活動の指導の実践」
- 3組：「一人一人が見通しをもって意欲的に活動・参加できる授業づくりを目指して」

### 小学部

今回小学部では、学部全体ではなく各学級ごとに取組できた実践を報告する。学級の実態に応じ、それぞれ児童の成長に寄り添えるように取組んできた実践で、2年間にわたる取組もあれば、今年度新たに取組んだものもある。在籍児童の実態の多様化に伴う2年間の取組を紹介する。

## 「個々の病状に配慮した指導の実践」

### ～校外での活動の取組～

### 中学部

平成29年4月、中学部には3名の生徒が在籍した。ここ数年在籍していた生徒の状態像と異なり、多くの配慮を要する生徒達である。学習活動中には目を離すことなく様子を見守る必要があり、緊急時の適切な対応も求められた。今回「個々の病状に配慮した指導の実践」としてまとめるにあたり、検討を重ねて計画、立案、実施した「校外での学習」が、学習活動の集大成として報告することが、今後の参考になるものでふさわしいのではないかと考えた。ここでは、重複障害学級1年の「校外学習」、通常の学級3年の「修学旅行」の実践について報告する。

## 「進路選択に向けて主体的に学習に取り組めるようにするための指導の在り方」

### ～職業科を中心とした取組から～

### 高等部

高等部には11名の生徒が在籍している。生徒たちは生活経験が少ないことから、将来の進路に対するイメージをもちにくい傾向が見られる。生徒の自己肯定感を高め、進路選択にしっかりと向き合えるようにするために、平成28年度から職業の授業内容の充実を図り、産業現場等における実習への取り組みを始めた。ここでは、卒業後の就労に向けて学習に取り組んでいる生徒が、就労に興味をもち、主体的に進路を選択できるようにするための「職業」の時間の取り組みを紹介する。

## 児童生徒の指導に関わる記録等 諸様式の検討について ～児童生徒個人の記録ファイルの作成・活用を通して～

やしお学級

やしお学級では、今年度より各児童生徒個人の記録ファイルを新たに作成し、この記録ファイルの活用を中心とした学級経営や児童生徒の指導を展開している。

本稿では、この記録ファイルの構成や作成方法及び活用方法について紹介するとともに、次年度以降への課題等について考察する。

## 退院に向けての取組

おおるり分教室

おおるり分教室は、自治医科大学とちぎ子ども医療センターに入院している小中学部の子どもたちが在籍している。医療センターは4病棟からなり、子どもたちのかかえる病気も様々である。そのため、退院して前籍校に戻る際の子どもたちの気持ちも、退院時の自分の状況や入院期間、年齢、前籍校の状況等により大きく違ってくる。

我々分教室職員は、退院時の子どもたちの不安を少しでも軽減し、子どもたちが前向きな気持ちで前籍校に戻っていくためにどのような取り組みが出来るかを、分教室に転籍した時点から常に意識しながら子どもたちと接している。

今年度は、子どもたちが退院の際に出来るだけ前向きな気持ちで前籍校に戻れるように、自立活動の授業を中心とした取組について報告する。